

講義科目名称： 多文化共生の理解

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択科目
担当教員			
張 允麿、長澤 雅春、藪 敏晴、久保 知里、青柳 達也、夏目 朋之			
対象	韓国語文化、グローバル共生 IT、司書アーカイブズ	ナンバリング	KB021, GB021, LB021
添付ファイル			

サブタイトル	
授業の概要	少子高齢化に伴って近年の日本ではグローバル化が急速に進行し、地域社会における「多文化共生社会（グローバル共生社会）」の実現が喫緊の課題となっている。「私（たち）」とは異なる文化・宗教・社会的背景を有する人々の存在を知り、認め、共に（可能な限り仲良く）生きる、それが「多文化共生社会」である。本授業ではグローバル系コースに所属する6名の教員が、それぞれの専門分野の視点から多文化共生に関する講義を行ない、一巡するごとにディスカッションを行なう。受講生には、それらの講義や議論を通して、グローバル化が進行する地域社会における自身の生き方や社会のあり方を考えてほしい。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「異文化」対応力を身に付ける ・自らの意見を持ち、表現することができる ・社会現象を多角的な視点をもって見るすることができる
該当ディプロマ・ポリシー項目番号（評価基準番号）	DP2.3
授業形態	講義
授業計画	<p>1 ガイダンス（全員） 「多文化共生社会」について、またその社会のなかで自分がどうあるべきか等、授業の内容と目的について説明します。 事前学習：「多文化理解」について自分なりの考えをまとめておく。（0.5時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>2 アメリカでの留学海外生活（青柳） 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>3 1990年代の韓国という異文化との共生（長澤） 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>4 韓国人の苗字と改名ブームについて（張） 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>5 文字を使わないコミュニケーションツール（久保） 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>6 世界の中心で愛を叫ぶ（藪） 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>7 日本的経営（夏目） 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>8 現代と江戸時代の文化比較（久保） 事前学習：これまで整理したノートを確認し、疑問点があれば整理しておく。（1時間） 事後学習：ディスカッションの内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>9 ディスカッション① これまでのテーマおよび「多文化共生」について、教員同士のディスカッションを行なう。 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>10 佐賀の歴史（幕末維新期）（青柳） 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。（1時間） 事後学習：授業内容を整理してノートをとる。（1時間）</p> <p>11 韓国の配達（張）</p>

	<p>12 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。(1時間) 事後学習：授業内容を整理してノートをもとめる。(1時間) 文化衝撃としての仏教的想像力(藪)</p> <p>13 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。(1時間) 事後学習：授業内容を整理してノートをもとめる。(1時間) 西洋絵画と神(長澤)</p> <p>14 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。(1時間) 事後学習：授業内容を整理してノートをもとめる。(1時間) (夏目)</p> <p>15 事前学習：配布資料を読んで疑問点を整理しておく。(1時間) 事後学習：授業内容を整理してノートをもとめる。(1時間) ディスカッション② これまでのテーマおよび「多文化共生」について、教員同士のディスカッションを行なう。 事前学習：これまで整理したノートを確認し、疑問点があれば整理しておく。(1時間) 事後学習：ディスカッションの内容を整理してノートをもとめる。(1時間)</p>
アクティブ・ラーニングを促す手法(主要なもの)	ミニッツ・ペーパー
評価方法(基準)	毎回提出する小レポート(60%程度) 期末レポート(30%程度) 授業参加への意欲・態度(10%程度)
課題(試験やレポート等)のフィードバック	期末レポートについては、成績確定後、希望者に返却する。
教科書参考書	随時資料を配布する。
備考・履修上の注意	
科目に関する実務経験を活かした教育内容	
オフィスアワー	キャンパスライフ参照